

創刊にあたって

芸術情報学部

情報表現学科長 四方 義昭

芸術情報学部研究紀要創刊号が発行される運びとなりました。平成12年4月に総合政策学部および芸術情報学部音楽表現学科とともに創立された芸術情報学部情報表現学科では、デジタルメディアの分野における芸術と科学の統合を旗印に日々研究・教育に邁進してまいりました。この創刊号においてその成果の一端を紹介することができることはスタッフ一同の大きな喜びであります。

情報表現学科は、様々な情報メディアの進歩、ネットワークの高度化等、激しく進展する情報化社会の要請に応え、映像、音響、コンピュータグラフィックス（CG）、情報およびネットビジネスの分野におけるアートとサイエンス、すなわち芸術と科学の融合を基本コンセプトとし、リサーチとプロダクション、すなわち研究と制作を通して、上記個々のフィールドにとどまらず、複数のフィールドに跨った分野における新たなメディア文化を創出することを目標としています。また、これらのフィールドにおける情報表現技術・手法の創出や各種コンテンツの制作にとどまらず、演出、企画や創造活動に関わる人間の特性や感性の研究等を通して、情報・メディア・コンテンツ・コミュニケーションなどを総合的に研究しています。最先端のデジタルツールを使用した3次元CG、最新の制作手法や処理技術によるデジタル映像、デジタル処理技術を駆使した高度なサウンド、コンピュータと人間のインタラクティブな関係に注目したゲームや画像処理、ブロードバンドネットワークを利用したコンテンツ配信や電子商取引等、本学科が着目するフィールドにおける研究・制作テーマは数多く存在し、時代の最先端を行く研究・制作を進めていくことが期待されています。このような情勢の中で、情報表現学科の1年間の活動・成果を本創刊号を通して理解して頂くことができれば幸いです。